

令和二年度 奈良県知事賞

「税に関する作文」

奈良県立十津川高等学校 一年 齊藤 匠吾

僕はふだん買い物をする時、なにも考えずに消費税を払っていました。それは僕が買い物をするようになっていた時には、消費税の制度ができていたからです。今回の作文を書くにあたり、消費税について調べてきました。1989年4月1日、日本で初めて消費税が導入されました。消費税は、一般市民にとっても身近な「消費」という行動に課せられる新たな税であり、毎日の暮らしを直撃するであろうその税に対する拒否反応は凄まじく、各地で反対運動なども起こったそうです。テレビや新聞のニュースでも毎日のように消費税のことが取り上げられるなど、30年前の導入当時、世間は大変な騒ぎになっていたそうです。その後も国民の反発を受けながら、1997年に5%、2014年に8%と段階的に引き上げられ、2019年には10%（飲食料品や新聞は軽減税率適用で8%のまま）まで引き上げられました。導入時の事は初めて知りましたが、消費税引き上げの時の状況は、遠足のおやつが買える物が減ってしまうや、家の車を買替えるかどうかなど、身近な話として覚えています。

そして消費税が導入された理由には①税制全体のバランスをとるため。②個別間接税の問題点を解決するため。③高齢化社会の財源を確保するためがあるそうです。①と②については正直よくわからないこともありますが、③についてみると仕方のないことなのかなと思いました。それは僕が今住んでいるところも高齢者の方が多く、また自分の両親もこれからどんどん歳をとるし、自分も歳をとる。その時に安心した生活を送りたいからです。日本では10%の消費税を払っていますが、他の国でも消費税があるのか調べてみました。ハンガリー27%、クロアチア・スウェーデン・デンマーク・ノルウェー25%と倍以上の消費税を払っていました。しかし、基本的な食品や医療品、生活必需品は軽減されていて、基本生活は守られ、そして、負担がある分、医療費・教育費が無料、老後の生活の保障があり、国民が納得できるシステムになっているようです。日本も超高齢化社会を迎えるにあたり、これからも消費税が上がることは仕方のないことである事も理解できる。しかし、赤ちゃんから高齢者まで安心して、安定した生活が送れるような税であって欲しいと今回消費税の事を調べて思いました。